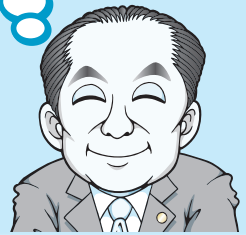


## 町長の一言



## 水をめぐる話

那珂川は、清流として全国でも上位にランクされる川です。沿川の市町村も家庭の汚水処理として、下水道事業を進めているところとあります。

昨年の町民まつりの中で「くらしの会」の方々が城里町内の河川の水質調査を行った発表がありました。そういう活動の中に、住民が環境を守っているという意識が高まっている、大変有意義な企画であったと思っています。

町では今、流域公共下水道事業、特定環境公共下水道事業、農業集落排水事業、合併浄化槽事業などを併せて、全町整備を目指して進めているところとあります。しかし、これ

には長い期間と多額の投資を必要とするので、順次整備を進めていく考えであります。

先日、テレビで映画「第三の男」を観ました。

これは、私が高校生の頃に観た記憶があります。1949年の作品で、第二次世界大戦直後の崩壊したウィーンでの物語です。私は映画のストーリーよりも、あの町の巨大な下水溝の構造に興味を持って見ました。路上の雨水排水口、点検階段、左右から流入する下水、オーソン・ウェルズが逃げるトンネル状の下水溝は、ヨーロッパの長い年月の社会基盤整備の蓄積の象徴でもあると思いました。

## 文芸しるさと

## 俳句

臘梅は胸を張らずに咲きあたり 飯田 勇一  
盆栽の梅待ちきれず咲き初めし 山崎 正行  
花道にみな目のゆけり初芝居 和田 範子  
麁線となるバス停に寒鳥 阿久津 あい子  
肉まんの肌のふつくら雪降り 鯉 潤 寿美恵  
日射し受け磯の冬霧溶けにけり 高橋 芦江  
受験の子髪くろぐろと輝けり 仲田 まちゑ  
舞ひ降りし如くに並び春の靴 竹内 幸子  
手を振って別れの軽き春帽子 飯村 愛子  
三世代の家族七人福は内 今瀬 多代美  
白川郷雪に包まれ静かなり 飯村 昭子  
太き葱きざみて母を想ひをり 森 静江  
囀りや東と西と風違ひ いそべきよ  
春光の中の神殿遠参道 瀬谷 博子  
八十路坂熊野古道や秋深し 岩下 金司  
前の山眺望いつしか冬景色 富田 欽子  
もろこのやわらか団子寒がゆく 田口 勝元  
暖冬の八十路のみちもあわずか 市川 義子

## 短歌

硝子戸の外は短日冬されあて 硝子戸の「アッサム」の花匂ひ来る 青柳 京子  
三匹の野良猫集まりて「こんな年も仲良く遊ぼう」と言ひ合ひており 山形 式 妙  
避けがたき「生・老・病・死」そのひとつの終は桜咲く頃でありたし 渡辺 千紗子  
球を打つ吾のボーイズ決まりし草野球春き日の一瞬の残れる写真 秋山 愛子  
霜柱まどひし青菜はやわやわと冬の夜鍋に美味添えくるる 大森 久子  
軒下に干されたる大根干瓢の乾く匂いす隣庭より 高堀 よしの  
光太郎と千恵子を偲ぶ菊人形まわる舞台上に旅を楽しむ 佐川 あや  
起床してくるなり「おはよう」と声掛けくる元気な男孫に心癒やさる 杉山 みちこ  
千葉の地より養豚農家の若妻が今年も訪ひ来わが林檎園愛でて 宮本 ふみ江  
秋ひと日町の文化祭賑はひて展示作品もあまた並べり 所 美恵子  
新年もテレビ映像目を伏せる人生狂えし若者ありて 仲田 こう  
「ただいま」と戻りくる人なきわが家落ち葉吹く風の夕べ身にしむ 岩下 通子  
やわらかな山の風吹く峰に立ち転がし下ろすいたけの原木 鶴田 すが  
春がきて又春がきて八十有余年後に残しは辛苦の道のみ 岩下 美知野

## 川柳

南天の実を啄ばみしひよどりの霜をけちらし飛び去りゆきぬ 阿良山 ウメノ  
黒髪を丸く束ねし孫娘少女らしきにおうこの頃 山口 栄  
五十歩を数えては休みつつ汗なして着きたり新年を祈る社に 薄井 ひろ  
風冷きやよいの夕餉もふき味噌の淡き香りに食む心づける 枝 不美  
譲られたる席に抵抗なく坐る老いに馴れたるころ淋しむ 片見 和枝  
新年の十三夜月は静やかに「おかさ」を召されて中空をゆく 川上 千代子  
息の家族と屠蘇汲み交わす湯の宿をひととき染めて新春の朝やけ 島 愛子  
前厄も後厄もなく加護受けて本尊に焚ける香に咽せをり 多田 志保子  
毎日が心にゆとりなきままに夫の看護もままならず過ぐ 坪井 きよ子  
茶畑の抜根終えたるむき出しの土は寒々と次の主を待つ 萩谷 登喜子  
霜柱に耐えて弾いてわが番よと芽を吹き出せし黄の福寿草 和知 美智子  
七、八、九年の連記の日記の白きページは如何なるひと日と埋ずるや 富田 佐智子  
乳母車婆さん連れて散歩道 青木 新三郎  
日の出待つ寒い朝程美しい ケータイと一緒に祝辞聞く二十歳 山本 隆 荘  
中島 芳春